

福岡県立ひびき高等学校 平成30年度 学校自己評価表 (定時制課程)		(計画段階・実施段階)		17
		福岡県立ひびき高等学校長 印		
学校運営計画(4月)				
昨年度の成果と課題		本年度重点目標	具体的目標	
<p>開校15年目の昨年度は、単位制・三部制の高等学校であるひびき高校の特色・存在意義・求められる姿は何か、ひびき高校の根幹を問直す一年間と位置づけ、第2次ひびきプランの検証・評価や学校行事、教育活動の見直しを行った。教職員間の意見交換も進んでおり、学校行事、教育活動の見直しについては一定の成果があらわつつある。</p> <p>高校教育改革、高大接続改革の姿が具体化していく中、授業改善は待たない状態になっているが、教員個々の取組になっており、学校全体の取組になりえていないことが大きな課題である。</p> <p>今年度は、学校としての授業力向上を第一の目標とし、全教員が「授業を通して何を伝え、何を身に付けさせるか」を明確にした授業展開に取り組む。また、全教職員がカリキュラムマネジメントの意識をもつことで、第2次ひびきプラン、学校行事、教育活動の検証・評価・見直しを行い、年内に第3次ひびきプランを策定する。</p>		<p>不測の授業改善</p>	<p>授業ごと、単元ごとの到達目標を明確にし、「授業を通して何を伝え、何を身に付けさせるか」を意識した授業展開を推進する。教員と生徒が目標を共有し、「わかって学びたくなる授業」「対話と規律ある授業」「日々鍛えて褒める授業」の具現化に取り組む。授業を通して生活指導・進路指導のあり方を追求する。</p>	
		<p>心の教育の推進</p>	<p>HR活動、体験活動や地域との交流を通して心の教育を充実させ、規範意識、倫理観、道徳心、人権意識などを醸成する。ボランティア活動を推奨し、積極的に地域に打って出る。人権教育について、教員研修のあり方、特設人権教育のあり方を検討し、ひびきにふさわしい人権教育を推進する。</p>	
		<p>学びあい、支えあう教職員集団作り</p>	<p>日々の教育活動を通じて互いに高めあい、教師力・学校力を向上させる。ひびきメンター制度の効果を挙げるための方策を検討し、活発な意見交換が行われる職員室を目指す。生徒との人間関係・信頼関係作りを努め、チームとして多様な生徒へ対応することで不登校や中退の抑制・防止を目指す。</p>	
		<p>カリキュラムマネジメントの実践</p>	<p>全教職員がカリキュラムマネジメントの意識をもち、日常の教育活動を常に検証・評価し、スピード感をもって改善していく。会議のあり方・会議に頼らない意思疎通のあり方について検討する。ボトムアップ・トップダウンの融合で意見交換を進め、生きた仕組みづくりを目指す。</p>	
		<p>ユネスコスクールの取組の推進 (ESDの推進)</p>	<p>環境教育、国際理解教育を推進し、地域活動や生徒海外研修などの交流活動に積極的に参加する。ひびきらしいボランティア活動のあり方について検討し、持続可能なボランティア活動の枠組みを作る。ESDをひびき高校の特色作りのチャンスとして捉え、他のESD校(小中学校を含む)との交流を模索する。</p>	
部	本年度重点目標			
<p>教務部</p>	<p>○ 単位修得率を80%以上を目指す。不測の授業改善が出席率向上に繋がり、「日々鍛えて褒める」ことを実践していく。普段の生徒を把握することや電子黒板や図書館等の活用によりアクティブラーニングなどの授業を実践していく。</p> <p>○ 広報の充実を行う。より適切な入試相談ができるように、教員のスキルアップを目指す。中学校訪問や体験入学会、HP等で情報の発信を常に行っていく。</p> <p>○ チームひびきの連携強化を図る。職員の連携強化のために、報連相の一つとして、適切に情報共有できるように、早く正確な月別行事予定など作成していく。保護者教師会や同窓会とも連携を深めていく。</p>			
課	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
<p>教務課</p>	<p>前期・後期合計の単位修得率を80%台に乗せる。(前年度実績79.2%)</p>	<p>定期的に、全体の出席率や一部欠課の人数などをHRや掲示などを利用して生徒に示す。</p> <p>講座担当者による授業改善や生徒への関わりを通し、「出席したくなる授業」を推進する。</p> <p>小テストなどスモールステップを重ねることで生徒が「学力が向上したことを実感できる授業」を推進する。</p>		
	<p>様々な情報・資料の提供や、諸手続き・システム等の改善を実施し、教職員の教育活動の円滑化に資する。</p>	<p>生徒動態の状況を全職員がアクセス可能な形で開示する。</p> <p>教務関係の諸届けの様式・手続き等を見直し、わかりやすくする。</p> <p>生徒意識調査を年3回実施し、生徒の実態を把握し提示する。</p>		
	<p>入試相談・願書配布を教務部や校務運営委員が円滑に実施できる体制作りを進める。</p>	<p>入試業務研修会を年1回(週3コマの枠を設けて)実施する。</p> <p>教務部の入試相談・願書配布の研修を3回行う。</p> <p>入試相談割を年2回、願書受付割を年4回(後期・I期・II期・転編)作成する。</p>		
<p>広報活動の充実による志願者数10%の増加を目指す。</p>	<p>中学校訪問を年1回行い、中学生進路相談事業(2・3学区)に参加する。</p> <p>学校説明会と体験入学会を年1回実施し、中学校の高校説明会に20校以上参加する。</p> <p>ポスターと学校案内パンフレットを年1回作成し、学校HPを年100回以上更新する。</p>			
<p>庶務課</p>	<p>他分掌との連携を図り、業務や行事が円滑に行える体制づくりを行う。</p>	<p>他分掌との連絡・調整を密にし、業務や行事の円滑化を図る。</p> <p>月別行事予定を1ヶ月前に知らせる。</p> <p>前年度の反省点を踏まえ今年度の計画を立案する。</p>		
	<p>図書教育の活性化と保護者教師会の充実を図る。</p>	<p>学校図書館の活用や視聴覚機材を活用した授業を促進する。</p> <p>役員会や執行委員会への積極的な参加を促し、保護者との連携を図る。</p>		
		<p>総会出席率と委任状回収率の向上を目指す。</p>		

部	本年度重点目標			
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第2次ひびきプラン「ひびきたほめ」を推進し、生徒の可能性を伸ばす。</li> <li>○ 規範意識の向上を図り、互いの存在を認め、安心・安全な学習環境を確保する。</li> <li>○ 上記の取組を通して責任ある行動がとれる自主的な集団の育成を目指す。</li> </ul>			
課	具体的目標	具体的方策	評価（3月）	次年度の主な課題
生徒指導課	基本的生活習慣の確立を図る。	「マナーアップひびき」を第5段まで実施する。		
		ボランティア協会と連携し、ボランティア活動を推進する。		
		通常授業時は朝夕の校門指導を毎日行う。		
	学校行事、生徒会活動を活性化する。	ひびきサマーキャンプ等を活用し部活動加入率を40%以上にする。		
		生徒会役員を中心として校外清掃活動を長期休業中に年2回行う。		
		学校行事の充実を図り行事出席率を80%以上とする。		
修学課	不登校や中途退学の未然防止・抑制のための修学支援体制の充実を図る。	授業欠課時数「3、6ルール」について教科担当がタッチパネルに入力するとともに、担任への報告を各1回必ず行う。		
		いじめアンケートは毎月1回、家庭用チェックリストは年2回集約する。		
		月1回の生徒情報交換会では、生徒対応の具体例を提示する。		
	生徒理解に向けた取組の充実を図る。	研修部と連携して生徒理解を深める教員向けの研修会を年2回行う。		
		出席率が30%以下として2回指摘があった生徒に対するの対応システムを構築する。		
		出席率30%以下の生徒を持つ担任と専門職をつなぐシステム		
保健課	教育環境の整備に向けた取り組みを図る。	月別の重点目標を決め、毎月1回「クリーンアップひびき」を実施する。		
		該当生徒全員が参加し、通常の清掃活動を充実させる。		
		掃除道具の点検・整備を前後期1回実施し、校内美化活動を充実させる。		
	保健室経営を充実し、個別の健康相談に対応できるようにする。	SCや訪問相談員と連携し、組織的な支援を行う。		
		諸検診で綿密な計画を立て、円滑に実施できるようにし、受診率100パーセントを目指す。		
		個人カルテを活用し、教員間で情報共有を行う。		

部	本年度重点目標			
ガイダンス部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒が将来像を描く一助となるガイダンス事業を展開する。</li> <li>○ すべての場をキャリアカウンセリングの場と捉え、生徒一人一人の資質と進路志望を把握する。</li> <li>○ 生徒が「意欲ある学び」を継続できる学習環境整備に努める。</li> </ul>			
課	具体的目標	具体的方策	評価（3月）	次年度の主な課題
ガイダンス課	進路ガイダンス行事を積極的に活用する生徒を育成する。	事前指導を2回以上実施する。		
		3講座以上の講座の入れ替えおよび精選を図る。		
		時間割作成につなげる事後指導を実施する。		
	進路実現のための適切な時間割作成ができる生徒を育成する。	校内研修会を4回実施する。 ガイダンスプロジェクトを活性化する。 学習ガイドブックの改訂・見直しを行う。		
進路指導課	自分の進路について主体的に考え行動できる生徒を育成する。	高大等連携事業への10名以上の参加に努める。		
		ホームルームでの進路講演会を5回実施する。		
		学校説明会・オープンキャンパスへの参加を推奨する。		
	進路実現に向けて努力する生徒を育成する。	模擬試験の継続的受験を推奨する。 個別指導の体系化を図る。 推薦基準を周知徹底する。		
進路渉外課	適切な勤労観・職業観を持った生徒を育成する。	インターンシップ（在校年次）の充実を図る。		
		応募前職場見学（卒業年次）を積極的に活用する。		
		就職内定率の向上（2月末に90%以上）を目指す。		
	長期的視野に立った進路意識を持った生徒を育成する。	奨学金制度の周知・活用を図る。 資格取得率、検定合格率を向上させる。 講演会等において外部講師を積極的に活用する。		
部	本年度重点目標			
研修部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒・教職員にとって魅力のある学校教育活動を創造するために、教職員の専門的資質を高める支援の充実を図る。</li> <li>○ 公開授業(研究授業、授業相互参観)による授業研修をはじめ、生徒による授業評価を実施し、授業の充実を図るとともに、校内職員研修を充実し教師力の向上により教育活動の活性化を推進する。</li> <li>○ 各種研修会については、他分掌との連絡調整を十分に図り、校内の研修の体系化と内容の充実を図る。</li> <li>○ 生活体験発表会等の行事の効果的実施により、本校で学ぶ意義や喜びを再確認させ、日々の学習活動への積極的な参加を促し学校への帰属意識の高揚に努める。</li> <li>○ ESDに関する教員の理解を深め、持続可能な社会の担い手となる生徒の育成を目指す。生徒海外研修、ユネスコやその関係機関・団体が行う活動に主体的に参加できるよう企画・運営する。</li> </ul>			
課	具体的目標	具体的方策	評価（3月）	次年度の主な課題
研修課	授業力・教師力の向上を図る。	授業評価の在り方を見直し、効果的に実施（年2回）する。		
		他の授業週間と連携し、目的意識を持った授業研究を推進する。		
		授業力向上を目的とした意見交流の場や学習会を企画する。		
	校内・校外研修会の充実を図る。	修学課と連携し、生徒理解を深める研修会(年2回)を実施する。 ガイダンス部と連携し、進路指導力向上のための学習会を企画する。 生徒部と連携し、地域活動への参加を推進する。		
ESD課	ユネスコスクールとしてのESDを推進する。	ESD授業週間（年1回）を実施する。		
		関連講演会（年1回）を実施する。		
		ESD教育につながる外部団体実施の活動や研修への参加（随時）を推奨する。		
	環境教育と国際理解教育を充実させる。	環境シンポジウムなどでの発表、展示（年1回）を行う。 国際交流の積極的な受入（年1回以上）を行う。 生徒海外研修を実施（年1回）する。		

部	本年度重点目標			
年次部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 規範意識を確立させ、基本的な生活習慣を身につけさせる。</li> <li>○ 生徒一人一人の自己実現に向けて、自ら学ぶ態度及び自ら考え行動できる資質を養う。</li> <li>○ 年次の教員間および保護者との連携を緊密に行い、迅速かつ生徒にとって適切な対応を心がける。</li> </ul>			
課	具体的目標	具体的方策	評価（3月）	次年度の主な課題
新入年次部	自主・自律の精神を涵養し、基本的な生活習慣を身につけさせる。	規範意識を身につけさせ、問題行動の抑制・防止（前年比10%減）に努める。 修学課、SC、SSW、訪問相談員との緊密な連携により、不登校生徒の早期対応に努め、中途退学者を減少（前年比10%減）させる。 学校行事や成績に関する生徒連絡等タッチパネル活用の指導（前年比30%増）を行う。		
	単位修得率の向上と進路指導の充実を図る。	電話連絡・家庭訪問・保護者面談等を通じて家庭との連絡を密に行い、授業出席率(80%)と単位修得率(80%)の向上を図る。 進路希望調査、近未来ガイダンス、受講ガイダンス等を通じて自己の興味・適性を認識させる。 年次通信を定期的(年8回)に発行し、家庭との連携を図る。		
在籍年次部	生徒指導を徹底し、問題行動の抑制や中途退学者の減少に繋げる。	規範意識を向上させ、問題行動の抑制・防止（前年比10%減）に努める。 修学課、SC、SSW、訪問相談員との緊密な連携により、不登校の防止に努め、中途退学者を減少（前年比10%減）させる。 学校行事や成績に関する生徒連絡等タッチパネル活用の指導（前年比30%増）を行う。		
	学習指導を徹底し、進路指導の充実を図る。	遅刻・早退・欠席を減少させ、授業出席率(80%)と単位修得率(80%)の向上を図る。 校外模試・検定試験受験やインターンシップへの積極的な参加を促し、参加者の増加（前年比10%増）を目指す。 年次通信を定期的(年8回)に発行し、家庭との連携強化を図る。		
卒業年次部	年次部職員全員で生徒の個性や能力・適性に応じた指導をすることで希望進路を実現する。	個人面談を少なくとも2回は行う。 HR・総学の時間に進路別学習を5回実施する。 年次通信を7回発行し、三者面談も少なくとも1回は行う。		
	様々な機会を利用して生徒の自己管理能力を高め、社会人としての基礎力を身につけさせる。	面接を希望する生徒に年次部職員で組織的に指導し3回は面接する。 就職模試、進研模試等の年3回以上実施し、受験を奨励する。 特設授業等を有効利用し、人権感覚を涵養する。		